

# ミニトマト（ハウス雨よけ栽培・露地栽培）

ナス科

## 栽培暦

月 旬	3			4			5			6			7			8			9			10			11							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
主 な 作 業	ハウス雨よけ																															
	●			△			▲			■			■			■			■			■			■			■				
	播種			鉢上げ			定植			収穫																						
露地																																
○			△			▲			■			■			■			■			■			■			■					
															← 病害虫防除 →																	

### ■栽培のポイント

1. 排水対策と深耕を徹底する。連作地では接ぎ木苗を使用する。
2. 施肥量・施用時期に注意して、過繁茂を避ける。

■品種・種子量 千果、サンチェリーピュアなど。a 当たり 2~3 ml。

■育苗 ハウス内で電熱育苗を行うか、あるいは定植適期苗を購入する。

**温床** 播種床約 1 m<sup>2</sup>、鉢床約 8 m<sup>2</sup>を準備する。電熱線は 3.3 m<sup>2</sup>当たり 250Wの割合で設置する。トンネルはビニール 2 枚の天井合わせにする。

**播種** 穂木は 128 穴、台木は 72 穴のセルトレーに育苗用の培養土を詰め、播種前に培養土が均一に湿るよう十分にかん水してから播種し、厚さ 5 mmほどに覆土し、発芽までは濡れ新聞やポリマルチ等で覆い、トンネル内で管理する。発芽まで 25~28℃。発芽後は 20~22℃、夜間 18℃で管理する。

**接ぎ木** 連作地では土壌病害回避のため、接ぎ木苗を使用するのが良い。接ぎ木適期は、本葉 1.5~2 枚時、播種後 25 日前後で、幼苗接ぎを行う。穂木と台木を斜め 30 度にカミソリで切断し、台木に支持具を装着し、穂木を台木の切断面を合わせるように差し込み密着させる。接ぎ木後は、気温 25℃の密閉したトンネルで約 4 日間程度養生後、苗の状況を見ながら徐々にトンネルを開けて馴化する。接ぎ木では、台木の品種選定（ウイルス抵抗性の一致）には十分注意する。

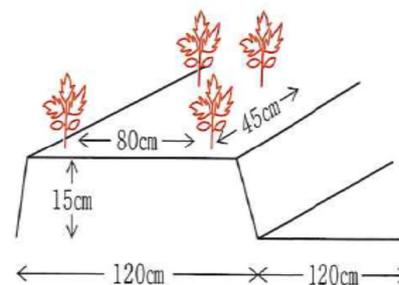
**鉢上げ** 馴化後、セル内の根鉢が 2/3 程度回った時期に、直径 10.5~12 cmのポリ鉢に移植する。鉢土は前日から地温 25℃に上げておく。活着後は徐々に地温を下げて、「頭寒足熱」で健苗育成を心がける。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥	400kg	—kg	成分量
苦土石灰	8	—	窒素 2.3kg
苦土重焼燐	4	—	燐酸 2.2
MMB14号	10	—	加里 2.2
トミー有機グリーン	—	14	



**育苗日数** 55～60日。第1花房の開花始期に定植する。

**■定植準備** 排水良好で耕土が深い場所を選び、早めに良質有機物を施して深耕する。基肥の施用は定植予定日の10日前までにすませしておく。

**施肥** 草勢が強く節間も伸びやすいので、基肥は控えめにする。

**ベッド** うね間240cm、床幅120cmにうね立てし、かん水チューブを配置後、ポリマルチ（緑または黒）を張る。

**■定植** 根鉢を崩さないように注意しながら、株間45cmの2条千鳥植えする。

定植株数はa当り約190株。第1花房を同じ方向に植えて定植する。

**■定植後の管理**

**誘引・整枝** 定植後は倒伏に注意し、早めに支柱に誘引する。ひもで吊り下げの場合は、強風時に茎や根を傷めやすいので注意する。

整枝は主枝1本仕立てとし、わき芽は随時早めにかき取る。この時、汁液で病害を伝染させることが多いので十分注意する。また、ハウスの長期取りを行う場合には、第3花房上からななめ誘引を行うと良い。

**追肥** 第3花房開花始期から、窒素成分でa当り0.1～0.2kg/回を目安に追肥する。

**摘心** 一般には第7花房上に葉2枚残して摘心する。ハウス雨よけの多段取りでは目標花房の上に葉3枚残して摘心する。

**摘果・摘葉** 奇形果・裂果、病葉・古葉は随時取り除き、畑に放置しない。

**病虫害防除** 多湿時には葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなり、ハウスでは換気に努め、予防剤を主体に防除する。アブラムシ、アザミウマ類は早期防除を心がけ、青枯病・萎ちょう病・モザイク病の発生株は早めに抜き取って適切に処分する。

**裂果対策** 急激な吸水で裂果するため、周囲の排水対策を講じて雨水の流入を防ぐ。品種によっても発生に差がある。

**■収穫** 果実温が低い午前中、十分着色したものから順次収穫する。収量は作型によって大差あるが、a当り350kgほどが目安。